

第三回総合計画・総合戦略推進会議 会議録

【日 時】 令和6年11月6日（水） 13:00~16:00

【場 所】 ふれあいセンターなんとう 大ホール

【出席者】

委員長	村林 守	三重中京大学名誉教授
副委員長	田畑 紀實	南伊勢町区長連絡協議会
	上村 由佳里	南伊勢町社会福祉協議会
	小林 悦雄	南伊勢町老人クラブ連合会
	玉山 寿美	一般社団法人みなみいせ元気ネット
	森 真美子	南伊勢町商工会
	広田 真理子	南伊勢町 副町長
	濱地 智視	南伊勢町 防災安全課 課長
	里中 重信	南伊勢町 環境生活課 課長
	瀬古 智秀	南伊勢町 子育て・福祉課 課長
	田畑 武文	南伊勢町 教育委員会 事務局長兼建築専門監
	山本 泰規	南伊勢町 管財契約課 課長
	丹生 順二	南伊勢町 上下水道課 水道係 係長
	田中 基之	南伊勢町 建設課 地籍調査係 係長
事務局	小嶋 信人	南伊勢町 まちづくり推進課 課長
	小山 将彦	南伊勢町 まちづくり推進課 政策係 係長
	松尾 早里	南伊勢町 まちづくり推進課 政策係 主査
	奥 夏海	南伊勢町 まちづくり推進課 政策係 主査

発言者	発言内容
副町長	<p><u>1 開会</u></p> <p><u>2 副町長挨拶</u></p> <p>第2回みなみいせまつりが中止となった。最大の目的は町民みんなが一体となって楽しむことであった。今年は県と一緒に取り組む中でリハーサルをする必要があり、そのためには200人の来賓の皆様に入ってくださいとテントとステージを2日前に用意する必要があった。1トンのおもりを6つ付けていたが、強風が吹き、テントのボルトが外れたり、強度が保持できていない状態になった。大きなテントが問題なければ開催できたのだが、点検のところ危険があり、事故防止のため知事と町長の判断で全て中止することとなった。</p> <p>楽しみにしていた皆さんや準備してきた役場の職員も悔しい思いが残ったが、出店者の皆さんも悔しいけど次頑張ろうと言ってくれた。困ったことも自分たちで解決しようとやっていけた。この総合計画が「みんなの力でみんなの生活を明るくものにしていこう」という目標であるところ、今回まつりは残念な結果となった中でも、そういったことを垣間見ることができた。</p> <p>県にも多くの反省事項を伝えたところ。二度とこのようなことがないように、来年はきちんと成功させようと思う。この度は本当に申し訳なかった。</p> <p>「明日は今日より良い日になる」と思えるような今日にしたい。忌憚のない意見を頂きながら、そこに向かっていくための良い計画にしていきたい。</p>
委員長	<p><u>3 会議趣旨説明</u></p> <p>本日は「安全安心のまち」「子育て応援」プロジェクトについてご意見を頂きたい。昨年度から内部評価も変わっていると思うので、まず事務局から説明を行った後、プロジェクトについて意見交換を行う。</p>
まちづくり推進課長	<p>まず、昨年度頂いた意見に対する対応状況と、本日配布した回答書について説明する。その後、各プロジェクトについてご審議をいただきたい。</p>
事務局	<p><u>4 議事</u></p> <p><u>(1)前回質問に対する回答（各課より）</u></p> <p>昨年度頂いたご意見に対する進捗を報告する。</p> <p>活力ある産業・経済プロジェクトに関して、単身の若い方にはワンルームの需要が高いという意見については、目的外利用で教員住宅を一部活用しているところ。より使いやすくなるよう、位置づけを変えていく方向で調整している。</p> <p>買い物不便・困難対策プロジェクトに関して、移動販売の予定表をHPで確認できればいいという意見については、役場から企業に相談したところ、予定は随時変わり、周知は望ま</p>

	<p>ないとのこと。引き続き検討していく。また「事業再構築補助金などの補助金が手間がかかり、申請にお金をかけなければいけない状況であることから、申請時に使える補助があればよい」という意見については、今年度、国や県の補助金を使い事業の再構築を行う食料品店について、自己負担額の3分の2を補助する補助金を出した。移動販売を行う事業者は5分の4を補助する。専門家支援については、商工会を通じて活用いただいている。さらに有利な補助金があれば、要綱改正も検討したいと考えている。</p> <p>また「社協では移動販売に行けない方向への配食サービスをやっているが、好きなものがないのかすぐやめる方が多い。サービスについても2人前以上注文がないと作れないという事業者が多い。食事確保の支援策について解決策を。また、配達時に他のものも届けられると良い」という意見に対する進捗状況については、社協等と協議中のところ。</p>
委員長	質問、ご意見はありませんか。
委員	河内などではいつも注文して利用しているので助かっている。
委員	配食サービスについて、全く調理ができない方などが対象か。また、平日・土日祝も対応してもらえるのか。
委員	<p>対象は一人暮らしか65歳以上の方で、調理・買い物ができない方で、ヘルパーやデイサービスを利用しているがそれ以上に支援が必要な方を調べて審査会にかける。一部の事業者は土曜と祝日に対応可能。年末年始は休み。</p> <p>社協のデイサービス利用者だけが、お弁当の持ち帰りサービスを始めた。余っている食材を冷凍して詰めて持って帰ってもらっている。</p>
副町長	<p>食はとても大事。買い物プロジェクトを作ったのは、楽しみがなくならないようにという目的があった。配食サービスは生きていくことの維持という意味もある。請け負う業者が町内には少ない。民間のデイサービスではお昼とお風呂のほか、家族の分も含めた夜ご飯の販売を行っている。昔はデイサービスは夕方までのサービスだったが、最近は夜までやろうと変わってきていて、そういったことを役場でも支援していきたい。</p>
委員長	普通のお弁当の配食と高齢者の支援サービスの配食など、うまく組み合わせて取り組むといいかもしれない。
	<p>(2)重点プロジェクトに関する説明・意見交換</p>
事務局	<p>(安全安心のまちプロジェクトについて説明)</p> <p>第3回説明用追加資料2ページをご覧ください。安全安心のまちプロジェクトについて、前回の町民アンケートの結果として、町が安全安心のまちに取り組んでいると思う割合が少し落ちている。要因は防災や道路やゴミ、バスなど様々な生活の安心もあるが、全国的に激甚災害が増えていること、能登半島地震発生直後で防災意識が高まっていることが考えられる。</p>

事務局	<p>令和5年度の取り組みについては、3ページをご覧ください。</p> <p>生活の安全安心対策について、物価高騰対策として国の臨時交付金で子育て世帯、非課税世帯への給付金、水道料金の減免を行ってきた。引き続き国の支援があれば検討していきたい。</p> <p>また、特定空家対策として所有者への指導勧告、除却費用の補助を行った。令和5年度はゴミ処理について鳥羽志勢広域連合へ加入を行い、搬入方法の変更を行った。</p> <p>生活基盤の整備による地域と経済の活性化について、移動手段では、南島西地区のバス実証実験を10月から実施、令和6年2月から切原・中津浜浦地区のバス実証実験を行った。</p> <p>4ページの生活の保護、町の重要な機能維持、被害の最小化については、新たな避難タワー設置に向けた地元での調整、避難路の点検、なかよし保育園・南島地区小学校の移転先を南島中グラウンドに決定、かもめ作業所の高台移転の整備を行った。また、国道260号の整備促進に向けた県への働きかけや、奈屋浦漁港の強靱化について県と調整した。</p> <p>5ページについては、南勢地区、南島地区での防災フェスタの実施や、輪島市への災害派遣による災害対応力の強化を行った。激甚化する災害・新型コロナウイルスへの対応については、昨年度要望が多かった県管理の河川について、国や県に要望を行った。</p> <p>6ページの評価結果の分析について、集落のゴミ対策や特定空家の取り組みはその地区の住民向けの施策で、他の地区には成果が伝わりにくい。避難タワーや南島地区の保育所の高台移転、奈屋浦漁港の強靱化などは実施に向けた地元調整が多く、取り組みがあまり伝わっていなかった。災害対策については防災フェスタの実施により見える化に取り組めた。いかに取り組みをわかりやすく発信していくかが課題。地域での高齢者割合が増え、災害の激甚化が進む中、住民の不安解消のためさらに取り組みが必要。</p> <p>生活の安全安心対策は、既存の対策で解決が困難なものは新たな取り組みで検討する必要がある。</p> <p>忌憚のない意見を頂きたい。</p>
委員長	<p>グラフについて、町が取り組んでいると思う人の割合が微減していることについて、残りの65%の方が不安に思うことなどの意見は把握していないか。</p>
事務局	<p>設問に基づく理由記入欄を設けていないので、各課のコメント等で分析している。</p>
委員長	<p>アンケートでは残りの方がどんなところに問題を感じているかわからないとのことなので、みなさん役場に意見を頂きたい。</p>
委員	<p>3ページの生活の安全安心の推進対策について、特定空家対策で行う指導勧告や除去費用の実績5件については、全て撤去したということか。</p>
環境生活課長	<p>実績の5件とは、危険家屋は特定空家の協議会で認定を受けて除却費用の23%が補助されるが、危険と判断されたうち除却の実績が5件ということ。特定空家は50件ほどある。認定を受けて除却に至っていないものは9件ある。</p>

委員	自宅の近くに危険な空き家がある。環境生活課に打診したが、平屋建ての住宅の屋根が抜け落ちて、中で木が育っており虫もわいている。持ち主との連絡がつかない場合は、先に手を打つことはできないか。
環境生活課長	周りに危害が及ぶ案件は、区長や近隣から報告を受ければ確認に行って調査する。おそらく所有者の特定中と思われる。一度、場所等を確認させてほしい。
委員	早急に点検など進めていただきたい。
環境生活課長	町政懇談会では空き家の話題は半分ほどの地区で出た。
副委員長	空家対策委員会の委員長をしているが、この取り組みは比較的新しい政策であり、法の趣旨が町民に浸透していないかもしれない。噛み砕いたメッセージを行政から周知するべき。当町は他の市町に比べて実績がかなり上がっている。本来空家問題は、財産権の所有が認められており行政が介入しにくいもの。問題は、危険家屋に困っているなどの意見を住民がどうやって役場に届けるか。区長も法律の趣旨をわかっていない人もいると思う。住民レベルでの情報伝達の工夫を行い施策内容が届くようにし、住民と行政がタイアップし、双方が機能するように区長がその間で動くという形になってほしい。
委員長	区長から報告を受けて手続きをするとのことだが、除却までどのくらいかかるものか。
環境生活課長	報告を受けてから、相続人が特定された場合は年2回の協議会で認定されるが、協議会は希望すれば早く開催ができるため、最短では11月1日に報告を受ければ12月に認定となり、2ヶ月ほどで補助できる。
委員長	長くかかる場合は。
環境生活課長	その場合の方が多い。相続人が県外におり家屋の存在を知らない場合などは、認定を行うが除却まで至るのに時間がかかる。所有者と業者の話になる。
副委員長	報告を受ければ直ちに動くということ。相続人が除却費用の負担を拒否するケースなどは時間がかかってしまう。その物件が行政に伝わっているか、進捗具合については確認して伝えてほしい。
環境生活課長	調査中に周囲への危害が考えられる場合は、緊急用の予算がある。棚橋で今年度は実績があった。この制度の住民への伝え方については、来年度に固定資産税の通知を送付する際に特定空家の件を同封する予定。
委員	資料3の2ページの1人1日あたりのごみ排出量について、令和7年度の971という数字はどのような数字か。また、鳥羽志勢広域連合での処理に係る費用負担はゴミの量に合わせて変わるのか。

環境生活課長	令和3年度から令和4年度が大きく減少しているのは、コロナの影響でゴミの量が減少したことによる。鳥羽志勢広域連合の負担金は人口割、搬入量による。
副委員長	コロナが原因であれば、ゴミは減るのではなく増えるのではないか。
環境生活課長	家屋の片付けゴミが減ったと把握している。
子育て・福祉課長	ゴミの量は家庭ゴミより粗大ゴミが多い。コロナの時は自粛をして欲しいと呼びかけを行っていた。また当時クリーンセンターが老朽化しており運行を停止した時期があったことから、ゴミの量が減っている。
委員	新たな避難タワーについてはいつ頃できるのか。
防災安全課長	一次避難場所へ15分以内に逃げられない地域（避難困難地域）に建設予定。ふれあいセンターなんとう周辺と、役場周辺の2箇所を整備予定。
委員	既存の避難路の整備は区で行っているのか。
防災安全課長	避難路は町内240箇所ある中、区長から要望を頂くほか、既に実施済みの箇所もあるが、自分たちで点検を行っている。
委員	大江のサロンに行ったときに、避難路へは川を渡ってお寺に行かなくてはならず、川が増水しているときは怖いと聞いた。選定基準はどのようなものか。 また、古和浦のグラウンドゴルフの会場にシカが入らないように網が張ってあるが、避難のときに夜は慌てていたら引っかかるのではないか。
防災安全課長	大江地区は南島地区で唯一津波浸水想定区域外だが、2ヶ所一次避難場所がある。避難路について登りやすく改良はするが、その場所だと逃げられないという意見があれば、他のところが無いか区長と相談しながら確認していく。網については、照明をつけるなど考えられる。区長の意向を確認する。
副町長	網が避難経路にあるということですね。
委員	自分は高齢者支援課のサポートでえるがあ教室を実施しており、防災アンケートの集計を行っているが、高齢化が進んでおり、回答内容も「周囲に助けてもらう人がいない」「この道を通るとき壁が崩れていたらどうすれば」など、身近なことが増えてきた。集計の際に、こういうときどうしたらいいかと聞かれることが多い。防災に長けている方が居てくれれば、そういったことに回答できて安心されるんじゃないか。また、年に2回防災コーディネーターが来てくれているが、その方が回ったときに質問に答えるのはどうか。
防災安全課長	えるがあ教室は防災安全課と高齢者支援課がタイアップ行っている事業。新規の地区には防災安全課職員が行くが、その後は災害ボランティアコーディネーターに講師をお願いして

	<p>いる。タイアップして進めていきたい。</p>
委員	<p>小学生の登校の見守りを行っているが、国道沿いの草が酷いときがある。国道の右側（海側）を歩く子もいるが、コケや草が多い箇所がある。小学生が歩く箇所の定期的な点検はどうしているか。地域の声を学校が吸い上げ、行政に伝えるとなっているが、何年も変わっていない場所もある。道が膝丈くらい掘れている箇所もある。どのような対応をされているか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>学校または建設課から報告を受けるほか、県・警察の交通安全プログラムで把握している。町道は町が、県道、国道は県が草刈り等を行っている。今年は草が多く子ども達に我慢してもらっている状況。陥没箇所も対応しているが漏れがあるかもしれない。</p>
委員	<p>資料について、目標値に令和7年と令和11年のみ数字が入っており、他は斜線となっているのはどういう意味か。</p>
事務局	<p>総合計画を転記しており、総合計画では前期4年間の最終年の目標値と、その4年後である後期の目標値を記載している。</p>
副委員長	<p>委員さんの声を聞き、日常生活の中のことを話してもらっているが、身近なテーマで話できることは「みんなでまちづくりをする」という思想に合っていると感じる。そこに住む人の意見を聞くと大いに参考になり、感覚が違っている点があることもわかると思う。アンケートの分析は課がやっているのか。アンケートのサンプルサイズはどれほどか。回収率、回答率はどれくらいか。</p>
事務局	<p>20歳以上44歳以下が対象のものは、全員に送付しており、1500通ほど送付して300通ほどの回答があった。回答率はほぼ100%。 45歳以上対象のものについては、1500通を抽出し送付して600通ぐらゐの回答があった。回答が難しい高齢の方は抜いて抽出している。</p>
副委員長	<p>アンケート内容はおおよそ合っているのでは。分析については行政の一人よがりの面がある気がするが、この場で議論を重ねながら純粋な見方も取り入れてもらえれば。実施主体が自分の都合の良いように解釈してしまう場合もあるが、過剰な解釈をしている様子はないと思う。今後もこの形を続けてもらい、振り返りくらいの程度で、メニューを深化させてほしい。</p>
委員	<p>防災訓練を行ったが、道の点検や照明が必要な箇所などを地元の方が確認し、報告してもらえば役場も整備しやすいのでは。</p>
防災安全課 長 委員長	<p>防災訓練の振り返りで検討していきたい。</p> <p>安全安心のまちのアンケート結果でも述べたが、「町が取り組んでいる」と答えなかった残りの方が何らかの不安を持っているということ。それを把握しないといけない。グラフの</p>

	<p>微減について、役場は自分たちの取り組みが伝わっていないと思っている一方、町民は自分たちの不安が伝わっていないと思っているのでは。町民と役場の接点をつくるべき。防災訓練の際に集まった方に話を聞く、通学路の点検のときにリストアップしてその後解消されているか点検するなど。</p>
まちづくり 推進課長	<p>今年度もアンケート調査を実施する。選択肢を選んだ理由を書いてもらう項目などを加えたい。昨年度から町政懇談会を開いているが、アンケートでも皆さんのご意見をより吸い上げられるようにしたい。アンケートの送付時に、町の取り組み内容を同封することなどを実施したい。</p>
副委員長	<p>行政と住民との接点の持ち方、コミュニケーションの構築手段はいろいろある。住民の意向調査は今後の方向性を検討するために大切。 貰った資料にサウンディング市場調査（こちらの意向を伝えて知見を貰う）とあるが、産業団体や民間事業者が対象か。</p>
副町長	<p>民間事業者を対象にしている。行政が基礎的な案を作っていくなかで、その方たちの知見を聞きたいというもの。</p>
副委員長	<p>「民間の意見『も』取り入れて」という表現はよりやわらかい表現にしたほうがいい。</p>
副町長	<p>行政の発信の仕方を考慮しないといけない。気をつけていきます。</p>
委員長	<p>鳥羽市が広報にアンケートを入れている。折るとレターパックになる。手法を変えると継続性がなくなってしまうので今回は変えられないが、自由意見を聞くということなら検討できる方法ではないか。「こういうことに取り組んでいるがご意見はないか」という投げかけなども良いのでは。</p>
	<p>（10分休憩）</p>
委員長	<p>子育て応援プロジェクトのご意見を頂きたい。</p>
事務局	<p>（子育て応援プロジェクトについて説明） 追加資料7ページについて、町が取り組んでいると感じている町民の割合が減少している。要因はアンケート結果からはわかりにくいですが、今年度は子育て応援の新たな取り組みがなかったためと感じている。また、全国的に子育て支援に取り組んでいるため、町への評価に影響した可能性がある。 一昨年は子育て応援のポスターを作成したが、昨年度は他の事業での情報発信が増えたことで、相対的に子育てに対する印象が下がったのではと思う。委員の見識を聞きたい。 8ページの目標達成のための取り組みについて、昨年度は新たに忍者遊びなどの取り組みを行った。ふるさと教育では真珠の加工体験などを実施した。</p>

	<p>9 ページ、若者が住みたい町をつくることについて、神前浦の公園整備、五ヶ所浦のプランコの改修を行った。移住定住コーディネーター、おしごとアドバイザーの増員のほか、人材育成については、漁師塾の開催や漁業漁村活性化コーディネーター等の水産業や、みかんの学校の実施など農業分野に取り組んだ。</p> <p>10 ページの評価結果の分析については、内部調整が多く新規性のある取り組みが少なかったこと、全国的な支援状況の拡充、他の事業の情報発信により相対的に評価が低下した可能性がある。子育てに関しては情報発信方法の改善が必要で、不足する部分・強化する部分について検討していく必要がある。結婚については、有配偶率の影響や、有配偶出生率などを確認する必要がある。当町では人口減少による影響が大きいと考えている。結婚・出産・子育て・転出率などの分析が必要。</p> <p>11 ページの有配偶率について、未婚率は県内2番程度。</p> <p>12 ページの合計特殊出生率については、ここ数年高く、県内1位・2位ほど。子育て応援の取り組みの影響と考えられる。</p> <p>13 ページの転入出の状況について、昨年発表された将来推計人口において、2023年では若干持ち直している。</p> <p>14 ページの消滅可能性自治体について、若年女性人口の減少率を基にした、2050年には消滅する可能性がある自治体の公表になる。こちらには自治体の政策による将来への影響は反映されていない。データは若年女性の転入出の数字を基に分析しており、人口移動については2005～2010年、2010～2015年も加えた、3期間の平均的な動きを基に分析している。</p> <p>15・16 ページの年齢別社会増減数グラフについて、15 ページが2014～2018年の人口の転入出の移動、2019年～2023年の人口の移動。2014～2018で男性がゆるやかにマイナスから0に近づいている一方で、女性はあまり変化がない。20～44歳の年齢は当町ではマイナスの傾向が強い中で、男性で若干回復傾向となっている。2016年に地方創生の取り組みを始めたことが影響していると考えられる。</p> <p>16 ページについて、2020年以降、男性の30～40代が増加に変わっている。子育て応援の取り組みや一次産業のUターンの促進を行ったことが要因と考えられる。2023年には女性も若干プラスとなっている。当町は転出が課題になる中で、一つ一つの取り組みにより回復傾向に繋がっていると考えられる。</p> <p>17 ページの子育て応援の状況については、結婚、出産、子育てや若者の転入出などの対策や、情報発信など、両方の面から改善していくことが必要と考えている。</p> <p>委員長</p> <p>評価や分析へのご意見、さらなる取り組みについて意見を賜りたい。</p> <p>子育て応援プロジェクトには、子育て支援だけでなく、若者が住みたいまちをつくることも含まれている。そのことについても検討をお願いしたい。</p> <p>(意見交換)</p> <p>委員</p> <p>私たちの団体は、シニアや子ども達のスポーツの機会や場所を、地域で守っていくことが大事だと考えている。委託を受けて社会体育施設の清掃維持管理を担っており、旧体育館と2つのグラウンドを管理しているが、当初は使い方が荒かった。施設を使わない雇われた方</p>
--	--

	<p>が月2回点検を行っており、日常的な清掃点検ができておらず、早く見つかったらお金がかからなかったと思われる箇所が多くなってきていた。そんな中、元気シニアクラブの活動で体育館を使わせてもらうこととなり、「使う人が見ていこう」「貴重な財産を使わせていただく」ということを利用者が理解したうえで使おう」という意識改革を行った。現状は壊れたら修繕という体制だが、長寿命化計画を策定し、従来の事後保全型から計画的に修繕を行う予防保全型に変えていきたい。使用している地域の方や団体の意見、利用率など考慮しながら検討してほしい。</p> <p>現状としては、9教室で年間約6,000人、トレーニングルームは年間約4,000人が使用している。施設に関する計画を聞かせて欲しい。</p>
教育委員会 事務局長	<p>公共施設の管理計画の下には長寿命化計画を立てる必要がある。学校は策定されているが、社会体育施設については現状策定できていない。今後必要となる中で、長寿命化まではいかないが、施設の統廃合・廃止なども含めてまずは現状の点検を行い修繕計画を立てていきたい。</p>
委員	<p>廃校になった運動場の遊具の点検は行っているか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>廃校になったところは教委では管理していない。遊具の必要がなければ撤去となる。</p>
委員	<p>保育所の運動能力向上の取り組みは、指導者がついて行っているのか。</p>
子育て・福祉 課長	<p>忍者教室・英語教室はやる気スイッチグループに協力いただいている。忍者教室については半年ほど横浜に研修に行ってもらっている。</p>
委員	<p>子育て応援の情報発信不足とあるが、移住者が来たときに、子どもの親御さんの就職先はどうしているのか。</p>
まちづくり 推進課長	<p>移住定住コーディネーターが専任が1人、兼任が2人、内瀬のコワーキングスペースで空き家バンク・仕事の紹介を合わせて移住定住の取り組みを行っている。現在空き家バンクに登録は約80件あり、今まで120件ほどの成約があり約220人に定住いただいている。PR不足については町としてうまくできていない部分があるため、移住定住コーディネーターが都市に出向いてPRを行っている移住フェアなども含めて、近隣の市町とともに県外の方に向けて取り組んでいく。</p>
委員	<p>災害を気にされている方が多いがどうされているか。</p>
まちづくり 推進課長	<p>津波の危険などがない場所を希望する方は多い。そういった場所は少ないので、地域で避難できる体制づくりを行い発信できればと思う。</p>
委員	<p>大江はかなり人口が少ないが、津波が来ないし自然環境も良い。里山を意識した地域づくりはどうか。若者にニーズはあるか。</p>

まちづくり 推進課長	大江、切原などの津波の心配がない場所を活用できればと思うが、すぐに取り組むのは難しいので検討したい。
委員	<p>子育て世帯が住みたいと思うのは、子育て支援（の充実度）。高校生の子ども手当が拡充された際には、ありがたいという声、もっと早くしてくれればという声が出ており好評。町外に出て行っている子どもにも下宿などの支援があれば。</p> <p>また、地域おこし協力隊で移住されて事業を始めた人が増えている。そういった方を活用して地域おこしの方を増やすことが重要。</p> <p>黒字なのに後継者がいなくて廃業する場合は全国的に多い。協力隊等の外部人材を事業承継としてマッチングできればと思う。</p>
教育委員会 事務局長	高校生支援について、バスが半額となっている。下宿の方については、令和4年度からバス通学の方と同等の支援をしている。
まちづくり 推進課長	一次産業等の後継者育成事業も行っている。今後町独自の事業として何かできないか考えていきたい。
委員	以前協力隊の方に聞いたが、自分は普通のレベルで、都会では勝負できないが、地方なら自分でも活躍できると話していた。漁師の方がワンルームを希望していたことなど、若者のニーズをつかむことが大切。
まちづくり 推進課長	<p>地域おこし協力隊は今までに任務を終えた方で30人中15人が町内に残ってもらっている。現在9名が協力隊で活動中。</p> <p>教員住宅は多目的住宅に変えたいと思っている。移住者や起業する方に利用いただければ。</p>
副委員長	<p>池田内閣では所得倍増のために工業化が推進され、人が田舎から都会へ出て行ってしまった。先進国では一次産業から三次産業へだんだん意向していくのがパターンで、日本も同様だった。その結果、地方は衰退する一方で都会は発展し、それぞれ過疎・過密に悩んでいる。人間が求めるのは所得。まずは所得政策がないと地域に根付かない。住みたいという魅力を与えるかは付加価値の話だと思っている。</p> <p>「若者が住みたいというまちをつくる」について、若者定住団地として整備した7件のうち4件の売却が成立し、3件は成約に至らなかった、とあるが、成約に至らなかった理由を聞かせて欲しい。</p> <p>また、行政が考える「若者に好まれる住宅地・住宅」はどんな概念か。</p>
まちづくり 推進課長	<p>7件の内訳は、4件の船越団地のうち5件応募があり、4件成約となった。3件ある槌柄団地には応募がなかった。場所的な問題や利便性の問題が考えられる。今年度新たに船越の同じ敷地内である旧中学校グラウンドに造成を行い、来年春頃に募集をかけたい。</p> <p>町としては、高台であって買い物できる場所が近くにあり、他の市町へのアクセスがよい場所が必要になってくると考えている。</p>
副委員長	船越が全て売れたところにヒントがある。昔は神津佐にも教員住宅、公営住宅などがあっ

<p>委員長</p>	<p>たが、なくなってしまった。同じところに増やすのではなく多様性を求めたほうがいい。過去のあり方を反省しながら、やり方を改善して住みたい人を迎える必要がある。</p> <p>小さな住宅を建てるだけでも、従来のやり方ではなく意見を交えてプランニングしていった方がいい。視点の違う人の意見を聞く習慣をつけてほしい。精神論をこれからは軸にして取り組んでいくべき。新しい価値観をみんなで作っていくという価値の創造を提案できるようになってほしい。</p> <p>槌柄団地は向かないと自分も思っていた。今守るべきなのは集落の営み。集落に入っていけるような町営住宅を作ることが大事。それぞれの地区に「ここに来て欲しい」という候補地のアンケートをとるのはどうか。</p> <p>南伊勢町の子育て支援・環境は非常に充実している。新規事業が足りないから評価が下がっているというのは、必ずしもそうではない。他市町と区別されることもない。教育面において、当町は高校へのアクセスに課題がある。高校支援があれば子育て世代へのいいメッセージになる。移住時の就業の問題については、お仕事アドバイザーの活用において人手不足の事業者とマッチングを行うほか、商工会とタイアップして事業継承の支援ができればよい。</p> <p>(3)その他全般に関する感想・意見</p>
<p>事務局</p>	<p>子育てについて、職員としても子育てしている身としても、様々な意見を聞くことができて大変勉強になった。若者が住みたいまちをつくるという面については、仕事や住む場所など課題があるが、そういったことを考えていくことが大事だと改めて思った。今後も町民さんとともに、よりよいまちづくりに取り組んでいきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>町民の方にどうやって情報を伝えるか、ニーズを掴んでいくかということが大事だと思った。どんな事業においても、住民と役場が相互に思っていること、取り組みたいことをコミュニケーションしていければ、ニーズや価値観の共有ができ、それが新しい価値観を作っていくことに繋がると思った。そういったことを自分たちも提案していきたいと思った。</p>
<p>建設課係長</p>	<p>国道 260 号の整備に向けた国等への要望を継続し、交通安全プログラムを活用した県や警察、教育委員会、学校などと協力した通学路の安全確保を行い、緊急的な災害への対応を継続し、住民の安全安心を保てるような基盤整備を行っていきたい。</p>
<p>上下水道課係長</p>	<p>上下水道課の取り組みとしては、水道管の老朽化が多く断水でご迷惑をおかけする中、国の事業を活用しながら少しずつ更新事業に取り組んでいきたい。下水道事業については、家庭の生活排水を下水道への加入や合併浄化槽への転換を行い、当町の自然を将来に残せるように取り組んでいく。</p>
<p>管財契約課課長</p>	<p>管財契約課では工事や委託、物品等について年間 240 件の入札を行い事業に反映している。委員から公園の管理の質問があったが、当課で委託し点検整備を行っている。老朽化したものは撤去している。シカの（網の）件も出ていたが、大江公園も整備を行った。町営住</p>

	<p>宅についても耐震化が図られず安全でないものは解体を行っている。住んでいる住宅については修繕を行っている。環境整備により住民に長く永住していただけるよう取り組みたい。</p>
子育て・福祉課長	<p>子育て支援をたくさん行っているが取り組みが伝わっていないということがわかったので、しっかり伝えていけるよう頑張っていきたい。</p>
環境生活課長	<p>環境生活課は「生活」と付いているので、住民に密着して住民の意見を聞き、ゴミの分別はよりわかりやすく、交通面ではより利用しやすい環境生活課を目指していく。</p>
防災安全課長	<p>いつ来るかわからない自然災害に備え、自助公助をしっかり行い、一生懸命取り組んでいきたい。</p>
事務局	<p>住民との接点をどう持っていくかという点について、いろいろな視点をお聞かせいただいたことが非常に参考になった。鳥羽市のアンケートなども住民の困りごとなどを直接聞く方法として参考になった。宅地のアンケートを聞くというのは自分の発想になく、この土地を提供できるよという情報を地区から頂ければ町として非常に助かると感じた。</p>
まちづくり推進課長	<p>いろんなご意見を頂く中で、今後のまちづくりに反映していきたい。まちづくり推進課として、魅力ある町をつくるという方向で事業を進めていきたいが、それができたとしても町内外に発信していけなければもったいない。課内には広報情報係もあるので、どのように情報発信していくかを検討し進めていきたい。</p>
副町長	<p>職員が発言しているのを聞いて、自慢の職員だと感じた。みなさんと一緒にまちをつくることは行政だけでも住民だけでもできない。一緒にやっていくうえで、その半分を担う行政としていいメンバーだと思った。皆様の前で宣言したので、総合計画を作成するところから計画を進めていくところまで、全て自分たちが管轄していくんだという覚悟を持った推進委員だと思う。自分たちも覚悟を持って一緒にやっていきたいと改めて思った。</p>
副委員長	<p>未利用地を民間の事業者へ解放すれば町の活性化に繋げられるような場所もあると思うが、希望する民間に町有の未利用地を払い下げする等で活用するなどの考えは持っているか。</p>
管財契約課課長	<p>案件によるが、課内で検討し、町長や副町長と相談しながら進めていきたい。</p>
まちづくり推進課長	<p>3 閉会 頂いたご意見は検討し、新しい事業に活かしていく。 今回は「誰もが元気なまち」「輝きをもてるまち」のプロジェクトについて検討予定。</p> <p>—終了—</p>